



2011.7.1発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦
 連絡先 04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



新河岸川との合流地点 5月15日

不老川の親水性への夢

今般の電力不足の影響を受けて還流水（川越滝ノ下下水処理水を狭山市までポンプアップして放流）を流す時間が夜間の8時間になり、その結果、昼間は水が涸れて瀬切れを起こす機会が多くなりました。

ここ数年は河川改修工事にともなう落差口の撤去により、下流の新河岸川からの魚の遡上もあり、アユの遡上を見かけることもそれほど稀では無くなりました。還流水は下水処理水であり電気も使うので課題はあるのですが、それが無くなってみると、乾いた河床になり、魚たちは僅かに残った水たまりに逃げ込み、それができなくなると河床でひからびてしまうということが繰り返されているようです。今年に限っては早く梅雨に入り、自然の力でとりあえずこのようなことが解消されるのを待つしかありません。

そこで、たとえば、太陽光発電による電力で地下水をポンプで汲み上げて放流するような設備（夜間は蓄電池で対応）を何カ所か不老川の川岸に設置して、還流水に換えることはできないか、夢のようなことかもしれませんが、考える今日この頃です。（5月23日 中牟田 記）



ママコ/シリヌグイ

タデ科：こんぺいとう型の花は実に愛らしい。鋭いトゲが下向きに付いている茎のせいで、酷な名前が付いている。3年前の夏、不老川ぞいに群れて咲いていた。

不老川下流部 見学

5月15日

参加者9名（西部環境から2名）

石橋 → 武蔵野橋 → エースコック → 山田橋 → 新河岸川合流点
車で
→ 久保川合流点 → 夫婦エノキの林 → 権現橋 → 通学路橋

検証 定例会で感想や問題点、対策を出し合いました。

工事後の護岸の様子

・石橋～山田橋：護岸の下部から外来種が繁茂、ブロックからクワなどの木が突き出ている、今後護岸が壊れるおそれがある。草、砂利など管理やメンテナンスはどうなっているか。



・権現橋から下流の昨年度の工事部分：川幅の広さに違和感。凸凹の部分、土嚢、水制など、理解に苦しむ箇所がある。

・護岸に園芸種のスーパーイワダレソウを植栽するのはどうなのか？

水涸れの状況

・歩いたところ全体に水量乏しい。節電のため、還流水夜間のみ放流による。

- ・瀬がたくさんできている。流れが少ない。
- ・時々魚の死骸が見つかる。
- ・久保川合流部分、川の水が落ち込む箇所がある。工事の影響か。
- ・夜間だけの放流は魚にとってどうなのか？
- ・本来の「とすとらず川」であるべきか。
- ・近代化で川の状況が変わっている。拡幅、固い護岸、下水道普及など。

対策

魚の逃げ場を作る。

太陽光発電で地下水を流す。

今後の対応

川の流れの状態と魚、カモなどの状況チェックを定期的に行う。



風に吹かれ 見返り富士に送られて

不老川を新河岸川合流点まで

不老川が終着の新河岸川に合流していく様子が見たかった。昨年は水源地に行けたし、これで始めから終わりまで見ることができました。堀兼で振り返って見た富士山は薄れていたがドッシリとしてみごと！

新河岸川合流点に到着！河口には少し流れがあり、小さな魚が群れていたり草が多くホッとしました。が最先端は水が足りず途切れて袋状でした。途中では、水不足で所々で水たまり状態や河床が河原状態になり、子どもが遊ぶ姿も見受けられました。落差口から落ちる水も涸れ、流れの止まった川は見るも辛いです(自分の血管もこれにちかいのかな?)。こんな時の水確保に自衛隊基地の浄化水は？以前の基地からの排水口は今も繋がっているのだから...

堀兼では見るに忍びずコイを緊急疎開させた話を聞きました。久保川との合流付近では



40cmを超えるウグイの死骸が転々としていた(鯉のぼりの影と重なりまったく不思議な別の生命を感じた)。

「川越不老川を守る会」の方々と出会い、この辺の川の「死んだ石」(川底の砂利はもろくてすぐに砕け臭いもあり、建設業者も手を出さない状態)の話も聞きました。

昼食は夫婦エノキの傍の森で。ここは、高木さんが「自分にとっての鎮守の森なので苦にならない」と1人で手入れを続けている森です。私の昼食といえば、鳥の声を聞き風に吹かれ、玄米ごはんは緑茶を載せ熱い湯を注ぎ、少々の昆布と梅干し、混菜を前夜塩漬けにし保冷したもので食べた「幸せの味」でした。(永井)

～東川地下河川を見学して～

私たちが不老川の将来像を模索する上で、「なされるべき治水対策」と「維持すべき現状」、この両者にどう折り合いを付けるかは、非常に大切な事だと考える。根本を見つめて考え方を一層深めなければならない。そこで今回、参考のために所沢市街地を流れる東川の地下河川を見学することにした。

4月19日、当日は川越県土の職員の方に複合施設の立派な地下貯水池を案内していただき、その場所からもつながっている地下河川のあらましについて説明を聞いた。この地区ではアスファルトなどによる不浸透域が集中し、浸水被害が起こりやすい。対策として河川改修が急務であったが、市街中心部では建物が川沿いに張り付くように並ぶので、河道の拡幅がままならない。そのために、地下に直径4～5mのトンネルを2.5km掘削して雨水を分流することで、市街中心部の町並みと下流に続く桜並木を保全しつつ、浸水被害の軽減を目指すというものだ。

確かにこの区間では河川にどこか郷愁が感じられる。しかし、下を流れる地下河川の138億円という巨額な建設費用には驚いた。この施設の費用対効果をどのように評価するかはわからないが、不老川と同じ構想は適用できないことを改めて認識した。

今後、たとえば入曽地区が河川改修される時、やはり拡幅工事が基本になっていくであろう。それでも画一的な線は引かずに、河道の地点地点がもつ可能性を最大限に引き出した、視野の広い治水対策を心がけるべきである。そのためにも、私たちはより適切な提言を探さなければならないと強く感じた。（田端）



県土職員から
地下河川の説明を受ける

としとらず公園完成披露

去る5月21日、埼玉県の水辺再生100プランで実施した「としとらず公園」の完成式典と現場披露会が、狭山市の山王中学校と現地で行われた。不老川をきれいにする会のクリーン作戦と合同開催となったので、仲川市長をはじめ、多くの市民や関係者が参加した。

本工事は平成21年から市民も参加した検討委員会で協議、実施されたが、協議結果が反映されていない部分が多いと思われた。

子ども達が水に触れあう環境を目指したものであるが、河床がコンクリートで固定されたので、小魚は寄りつかない状況になってしまったこと、右岸は草の土手のまま残す計画であったが、工事をしてしまったので、崩れる危険があること、更に、3m程せり出したので河床が狭くなり溢れる危険性も感じられた。配水管が突き出ている景観的にも問題である。今後改良工事が必要であろう。（相馬）



だいじょうぶ？ キツネノカミソリ

川歩きクラブ

キツネノカミソリ移植地の看板を立てて10年、肝心の花が夏にあまり見あたらなくなっています。3月のトークイベントで話が出され、何とかしようと動き出しました。10数年前は兩岸とも群れ咲いていたとのこと。私達の迂闊さがあらわになりました。



看板近くにお住まいの方々とお話でき土手の草を手で刈り取り、生育を見守っていかうということになりました。

3件のお宅の皆さんは土手の自然を愛で、川辺を楽しんでおられるよう。「住んで30年。水はきれいになったけど土手の植物は貧しくなりました」という言葉を聞き、心強い味方に出会った思いでした。地元の方々とのつながりをもっと早く作っていたらなと悔やまれます。

まずは、土手の歩く部分のイネ科を刈り取り、アレチウリを撃退し... と思いはふくらみます。ごいっしょにいかがですか？

（田上）

清流の鳥「カワセミ」と第二の故郷の川

川越砂新田 松井金二郎



不老川のカワセミ 撮影松井さん

下流部見学の際、久保川合流点の近くで、川の鯉のぼりの手入れ作業後、川辺で談笑されていた「川越不老川を守る会」の方々に出会い、お話しする事ができた。会員の松井さんがカワセミを数年前から撮ってこられた事をお聞きし、「ささやき」への写真掲載と投稿をお願いする運びとなった。「守る会」の方々は日々、様々な形で川越下流部の川の手入れに勤しんで来られている。

「カワセミ」と聞いただけで「清流にすむ鳥」だと浮かぶ。私の故郷は秩父、清流が流れる川の畔だった。きれいな水が流れるところに、小魚をねらう鳥カワセミがいた。故郷を離れて今、不老川に清流が戻り、カワセミがいた。二十数年前、日本一汚染された水質の不老川があった。数年前、住民の運動、行政の努力により河川工事が終わった。その頃から、コイ、ボラ、ハヤ、アユなどの姿が見られる程の清流が戻った。カワセミの姿が見られるようになったのもその頃であった。

その姿は、朝に夕に、散歩する人たちに安らぎをあたえるものとなった。きれいな川にはきれいな鳥カワセミが似合う。故郷と同じだ。

きれいな川を維持するために、近隣の人たちの協力により護岸から美しく整備し、環境を整えることにより、この清流が小鳥を、多様な魚を育み、こどもたちのあそび場となるよう期待し、近隣の皆で見守りをし、第二の故郷の川としていきたいと思う。

おさそい

としとらず公園で 魚類調査

7月16日(土)

9:00より

協力：山王小PTAとおやじの会

問合せ：村手(04-2957-3425)

第11回大森の池まつり

8月7日(日) 10:00~15:00

大森調節池(入間市宮寺)にて

参加費 100円(保険料)

持ち物：飲み水、昼食、着替え

(水に入れる用意)

主催 大森の池実行委員会

≈流域情報≈

埼玉県から、「東日本大震災による節電で夜間22時から6時の8時間のみ放流していた還流水を、6月11日から20時から9時までの13時間放流する」旨連絡があった。梅雨に入り流量を増やすとは？

新河岸川流域連絡会より：

国交省荒川下流河川事務所の調査で、3月11日の地震時の津波の高さは、荒川河口で80cm、上流の笹目橋で40cmと発表された。

又、東京の直下型地震による津波は東京湾の面積が小さいので、50cm程度の見込み。

「川越の自然」(川越環境ネット発行)がこの程刊行された。市内の雑木林、河川などを、市民による長年の観察調査を元に、川越の自然案内としてわかりやすくまとめた冊子。当会員の横山さん、賀登さんが編集に参加した。好評で増刷を検討中のこと。

問合せ：賀登さん(049-234-9366) □

川づくりに参加しませんか

定例会：毎月第3土曜日 13:30~

年会費：1000円 詳細は下記世話人まで

入間市 相馬 04-2965-1741

狭山市 村手 04-2957-3425

所沢市 小黒 04-2923-8946

川越市 高木 0492-43-9828

編集後記

入曽橋下流付近でスケッチをしていたら「スケッチはいいですね」と男性が声を掛けてきた。「この川はいかが?」「いい川ですねー」「お住まいはお近くですか?」「いえ、郡山です」。狭山の娘さんの所に避難して来られたとのこと。そして福島は山も川もほんとにいいですと語ってくれた。(H.T.)